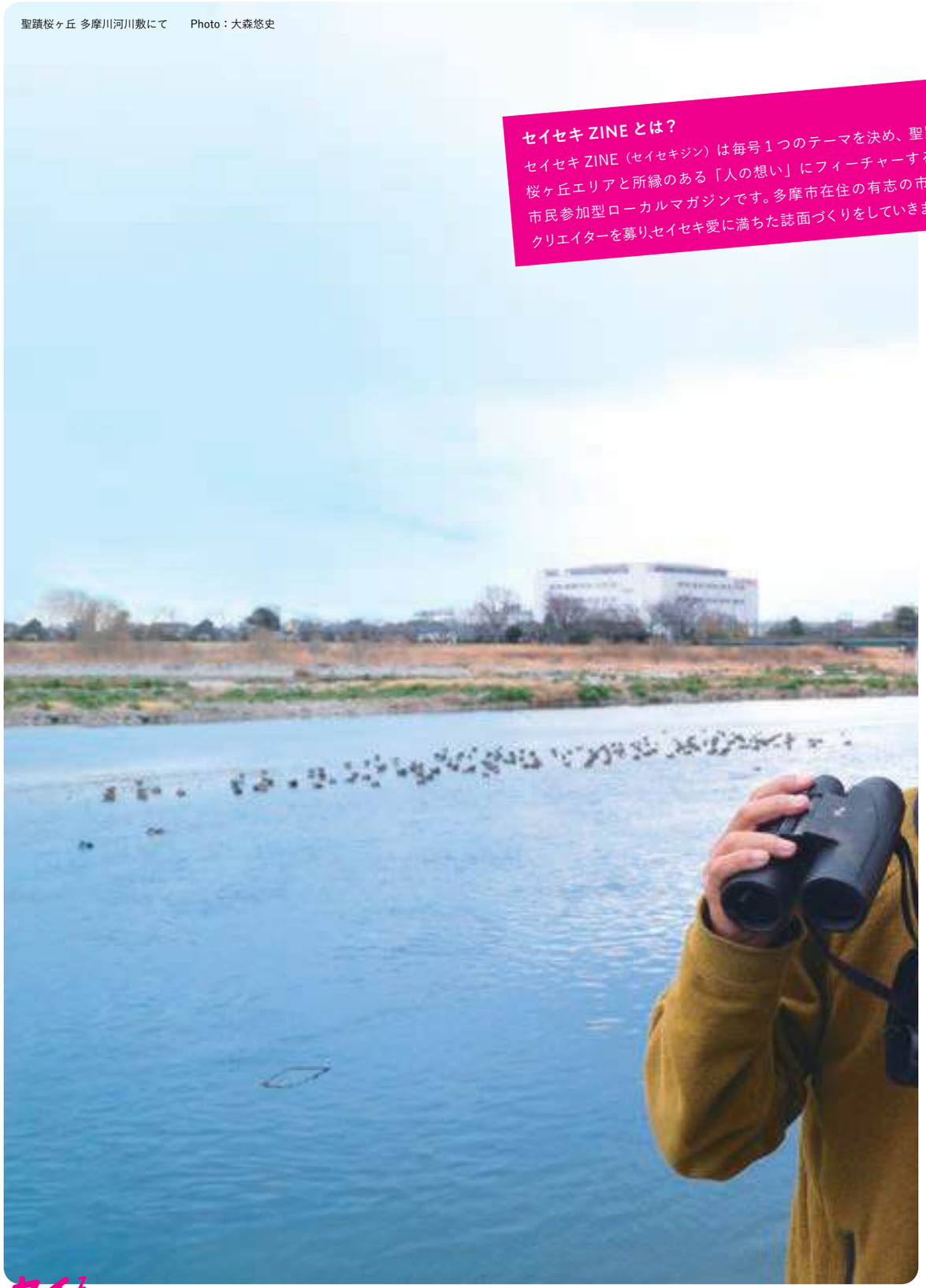
聖蹟桜ヶ丘 多摩川河川敷にて　Photo：大森悠史



セイセキ ZINE とは？

セイセキ ZINE（セイセキジン）は毎号１つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。多摩市在住の有志の市民クリエイターを募りセイセキ愛に満ちた誌面づくりをしていきます。

#6

セイセキ ZINE

聖蹟人

聖蹟桜ヶ丘 “People” ガイド

theme

つなぐ人

自分らしくカラフルに。
聖蹟桜ヶ丘には
想いと想いをつなぐ春がある。

Take Free

People Guide in Seiseki-Sakuragaoka. SEISEKI ZINE #6

セイセキ ZINE

発行：株式会社けやき出版　企画：京王電鉄株式会社　制作：けやき出版 BALL.COMPANY 事業部
デザイン：松竹暢子（Elstella Design Studio）、片山明子、新留沙織　印刷：シナノ書籍印刷株式会社

BALL. × 京王電鉄

We love SEISEKI

人と生きものをつなぎ、生きものたちを守りたい「多摩市生きもの調査隊」をご存じ？

「NPO東京生物多様性センター」の代表・渡辺仁さんは、2024年春、多摩市と協働で、多摩市市民が参加できる「多摩市生きもの調査隊」を立ち上げた人。いま思い描いていることは?

Interview、Text：Sayaka Kitakata / Photo：Yufumi Omori

渡辺仁さん

NPO東京生物多様性センター 代表。仕事で日本全国や海外で生物調査のプロジェクトなどに携わった後、東京を主なフィールドとする同センターを設立。

SEISEKI PEOPLE 1

生きものって愛おしい調査は市民参加型！

生きものや、生きものの暮らしを見たいと考えたとき、あなたはどこへ行くだろう？　動物園や水族館？　それとも大都市から遠く離れた大自然？そんなふうに考えたあなたこそ、家から一歩外へ出て、まわりをゆっくり見渡してほしい。

「みんな、東京には生きものなんていないと思うんですよ。大都市に生きものなんているわけないって。私も最初はそうで、麹町という東京のど真ん中で仕事をしなければならなくなったとき、『地方に行きたい』と思いました。でもそのうち見えてくるんです。都会の生きものは“ヒトがいる環境”をちゃんと利用するってことを。私はツバメが専門なのですが、ツバメはヒトが多い場所にあえて巣をつくり、カラスなどからヒナを守ります。都会には都会の生態系がある。私は東京を知らなかっただけでした」

そう話すのは、「NPO東京生物多様性センター」（多摩市一ノ宮）代表の渡辺仁さん。自然調査や生態系の保全にあたり、東京の人々が身のまわりの生きものに目を向けてもらうため、多摩市と協働で「多摩市生きもの調査隊」を立ち上げた。「生きもの調査隊」とは、多摩市の生きもの情報をスマホアプリ「iNaturalist」を使って集める市民活動で、やり方はとても簡単だ。哺乳類から魚類、植物や昆虫、キノコ類など、あらゆる生きものの姿や鳴き声をカメラやマイクで撮影・録音して投稿するだけ。名前が分からなくても「iNaturalist」を使っている世界中の科学者、ナチュラリスト、自然愛好家が教えてくれるので、誰でも気軽に学びながら参加できる。「多摩市生きもの調査隊」スタート時点（2024年4月）の目標「100人の隊員、1000種、10000件の観察記録」はクリアし、2025年3月3日時点で「（同定済みの）1556種」「43793件」の生きものが報告された。

これは市民参加型の調査としては驚くべき結果といえる。

セイセキの春を告げる生きもの

多摩市生きもの調査隊員が多摩市内で撮影

［ヒバリ］

［ニッポンヒゲナガハナバチ］

［ウグイス］

［ツバメ］

［シュンラン］

［コバノタツナミ］

［クサボケ］

［キンラン］

［キブシ］

［ツマキチョウとカントウタンポポ］

［アズマヒキガエル］

［アカネスミレ］

［**写真上**］鶴牧西公園の水田を調査する多摩市生きもの調査隊の隊員。“調査隊員のおきて7か条”は「自然を大切にしよう」「安全第一」「健康が大切」「楽しく調査しよう」「チームワークを大切に」「感謝の気持ち」「自然について伝えよう」。［**写真下**］一ノ宮公園の調査風景。19名の調査隊員が258件の観察を投稿した。

実際、京王線聖蹟桜ヶ丘駅から歩いて10分ほどの関戸橋付近では何十種類もの鳥を見ることができ、春にはヒバリやセキレイのさえずりが聞こえる。普段、漫然とながめていた多摩川、そして多摩市の風景が“生きもの”という切り口で捉え直したとき、驚くほど豊かで鮮やかな風景へと変わるはずだ。

「最初はハードルが高いかもしれませんが、たとえば虫が好きとか花が好きとか、自分の好きな生きものだけでいいんです。投稿して名前を知るところから始めてほしい。名前が分かると、その生きものが何かを知るための道しるべになります。検索サイトで検索することができるし、図書館で図鑑をめくるのもいいと思います。その結果、その生きものが絶滅に瀕しているのか、あるいは外来種なのか、本当にいろいろなことが分かってきます」と渡辺さん。その視線は多摩市や東京都をこえて世界へと広がっている。

「『iNaturalist』に投稿されたデータのうち「研究グレード」に認定されたものは、地球規模生物多様性情報機構（GBIF）など国際的な研究機関で共有され、世界中の研究に役立ててもらえる可能性があります。生きものの写真を撮って投稿するだけで、知らないうちに世界中の研究機関とつながっている。そここそ私が気に入っているところなんです」

多摩市発の市民科学データが国際的な自然環境研究に使われる日、そんな可能性を思うとワクワクする。それが渡辺さんと「多摩市生きもの調査隊」が未来に描く夢なのだ。

調査隊員募集中！
詳しい方も初心者も大歓迎！

「生きものを知る、生きものを守る、人と生きものをつなぐ、人と人をつなぐ・支える」市民が主体的に参加することで、地元の自然環境への理解と愛着を深め、地域全体で生物多様性を守る力を高めていくことを目指す「多摩市生きもの調査隊」では現在、調査隊員を募集中です。参加方法や投稿方法の詳細についてはこちらのQRコードよりアクセスし、ご確認ください。

春の風物詩、歴史をつないで今年で 44 回目！

笑顔咲く「せいせき桜まつり」の楽しみ方

SEISEKI PEOPLE 2

福井宏昌さん

多摩市関戸にある福井商事の代表取締役。生まれも育ちも多摩市で、15 年ほど前からせいせき桜まつり実行委員として活動。父や弟も実行委員を担当していた。

春の聖蹟桜ヶ丘には桜並木がある！住民も楽しみにしている「せいせき桜まつり」の実行委員の方に話を聞き、その魅力を深堀りしてみた。

Interview、Text：Momoyo Yuge / Photo：Yufumi Omori

［写真上］当日、屋台が並ぶ観蔵院の広場。実行委員がつくる舞台ではさまざまな催し物が行われる。［下］実行委員会による会議の様子。

第 44 回の見どころは？

1. 桜並木が連なる「さくら通り」にて、ハローキティが一日警察署長に就任する交通安全パレードを実施。12 時～
2. 聖蹟桜ヶ丘エリアに点在するチェックポイントを巡る「せいせきスタンプラリー」を実施。豪華賞品が当たるかも !?
3. 今年も川崎街道・駅前交差点を巡行する宮神輿の姿を間近で見ることができるチャンス。お祭り気分を高めてみては?

桜を鑑賞しながら、まちの新しい魅力に気づく

せいせき桜まつりは、駅の南口の商店街から始まったお祭り。現在は観蔵院、九頭龍公園、さくら広場、関戸公民館など 9 つの会場で開催。会場が点在していることで、街全体が大きな盛り上がりをみせるのが特徴。15 年ほど実行委員を担当している福井宏昌さんに話を聞いた。

「実行委員会では、毎年前年の 9 月からテーマやイベントについて話し合っていきます。例年人気のスタンプラリーや KAO アートは今年も行う予定です」

福井さんが担当しているのは、渉外という仕事。当日スムーズに進行するように、警察やバス会社、保健所、消防署との調整、さらに自治会や住民への告知など多岐にわたる。特に大変だと話すのは、観蔵院に設置する舞台の設営。祭り前日に実行委員が組み立てている。

「舞台上でダンス公演も行われるので、頑丈な木材で作ります。10 人程度集まればいいのですが、以前 6 人で組み立てたことがあり、大変でした。でも、舞台を一緒に作ると仲間意識が一層高まり、出来上がったときには達成感があります」

テーマは『笑顔サク、夢サク、花サク、桜まち』。このテーマに込められた想いとは？

「ブリリアも完成し、ここ数年で住民が増えました。桜まつりは会場が分かれていて、さらにスタンプラリーに参加すると、長く住む人でも知らない新たなスポットと出合うこともできます。新しい住民の方にも参加していただき、街の魅力を知って笑顔になってもらいたいですね」

会場に立つことで桜まつりを楽しんでいる人の姿を間近で見られるのも、実行委員ならではの醍醐味。今後もいろんな世代がつながる場を提供し続けたいというのが、福井さんの願いでもある。

せいせき桜まつり

開催日：2025 年 4 月 6 日（日曜）
時間　：10 時～ 17 時（雨天一部決行）

セイセキのオススメ。

11年かけて大きく成長！

宇宙を旅した桜たち

地球の周りを約 4100 周した桜が、桜ヶ丘公園に根を下ろしている。「宇宙桜」を題材に道徳教材を作成した三浦摩利さんに話を聞いた。

Interview、Text：Akira Andoh

三浦摩利さん

生まれも育ちも多摩市関戸。「自称、日本一多摩を愛する中学校教師」として地域活動に携わり、せいせき周辺のイベントなどでは司会を行う姿も。多摩市立聖ヶ丘中学校に在職。

桜ヶ丘公園 宇宙桜（そらざくら）MAP

01 醍醐桜（岡山県真庭市）

02 三春滝桜（福島県三春町）

03 稚木の桜（高知県佐川町）

04 ひょうたん桜（高知県仁淀川町）

05 高桑星桜（岐阜県岐阜市）

※写真は桜ヶ丘公園に植樹された 5 種類の宇宙桜のイメージ写真です。

多摩の宇宙桜 年表

2008 11/15
全国各地の桜の種がスペースシャトル「エンデバー号」で宇宙に飛び立つ。桜の種は約 8 ヵ月半、宇宙を滞在

2009 7/31
桜の種は、若田宇宙飛行士とともに地球に帰ってくる
宇宙から帰ってきた桜の種は、各地に戻って成長して宇宙桜となる

2013 3/3
桜ヶ丘公園に 4 種類の宇宙桜「醍醐桜」「稚木の桜」「ひょうたん桜」「三春滝桜」を植樹
多摩の宇宙桜が成長

2018 3/30
多摩の「稚木の桜」を渋谷区へ贈呈

2019 3/13
多摩の「稚木の桜」を福島県相馬市へ贈呈

2020 3/6
5 番目の宇宙桜「高桑星桜」を桜ヶ丘公園に植樹

現在
5 種類の宇宙桜は大きく成長し、毎年、花を咲かせている

桜ヶ丘公園からセイセキを見守る宇宙桜

宇宙飛行士・若田光一さんとスペースシャトルで宇宙へ旅立ち、地球に帰還した桜の種。その種から育った「宇宙桜」が桜ヶ丘公園に 5 種類植えられている。

「子どもの頃から親しんできた桜ヶ丘公園に宇宙桜が植えられると知り、とても驚きました。この内容で道徳教材を書いたら、子どもたちの郷土愛を育てることにつながるし、誇りをもてるのではないかと思いました」

そう話すのは多摩地域唯一の中学校道徳指導教諭の三浦摩利さん。市民として、教育者として「宇宙桜」に惹かれた。

「宇宙線の影響か、成長が早かったり、花びらの形が変化したりすることもあると聞きます。そのようなところに興味をもちました。研究者も注目しています。でも、何より大切なのはその桜が人々の心に与える影響だと思います。そして、宇宙桜との出会いで気づいたことがあります。植物って、少しずつだけど変化していて、あるときパッと花が咲いたり、季節がめぐると表情を変えたりして、日常生活とは違う時間軸で生きています。宇宙桜のように、地球を宇宙から眺めてきた存在があると思うと、私たちが過ごしている時間を、宇宙サイズのハートで少し客観的に眺められるような気がしますね」

桜ヶ丘公園に植えられて 11 年。すくすくと育った宇宙桜は、その苗を渋谷の桜丘町や福島の南相馬市にも贈呈している。

「宇宙桜は夢や可能性がつまった種から生まれた宝物です。いろいろな土地で育つ過程で、人々の交流があり、大切に育てられ、思い出のシンボルや絆となっていきます。教え子が宇宙桜を見に行って元気づけられたと連絡をくれたり、宇宙桜の前でプロポーズをした同僚もいました！ここ多摩の地で宇宙桜の輪が広がって、新しい物語が生まれていく。そのお手伝いができるとすれば、こんなに素敵なことはありません」

参考資料：宇宙桜植樹 10 周年記念誌『宇宙桜 ～宇宙を旅した桜たち～』より

1930年開館、多摩地域の近代建築の先がけ！

旧多摩聖蹟記念館の今昔物語

SEISEKI PEOPLE 3

戦前から現存する数少ない多摩地域の近代洋風建築と評され、多摩市指定有形文化財に指定される「旧多摩聖蹟記念館」。その歴史について聞いた。

Interview、Text：Hisaco Sato

多摩市最古のコンクリート建築

訪れたのは、桜ヶ丘公園内にある「旧多摩聖蹟記念館」。建築から100年経った楕円の滑らかな鉄筋コンクリート建築は、一見するにつけ、荘厳な雰囲気。中央に足を踏み入れると、ドーム型の開放的な空間が広がっている。

同館の学芸員を務める、多摩市教育委員会の澁谷朋恵さんが話す。

「多摩聖蹟記念館（現・旧多摩聖蹟記念館、以下『記念館』」は、明治天皇を顕彰する施設として1930年に建設されました。このあたりは長らく御猟場で、明治天皇が公務の合間に訪れるお気に入りの場所でした。御猟場廃止後、宮内大臣であった田中光顕の呼びかけと、鉄道網の発展の中で地域振興を求めていた地元の機運とが合致し、記念館の建設へとつながっていきます。地域住民による土地の無償提供や寄付で実現した計画でもありました」

開館当時は黄金に輝く明治天皇騎馬像を仰ぎ見る施設として、最盛期には1日2000人の来場数を誇り、都心や地方から教育施設として多くの人が訪れた。集客を見込み、1937年には最寄りの「関戸駅」を「聖蹟桜ヶ丘駅」に改称。当時の期待感がうかがえるエピソードだ。

「古写真からも分かるとおり、小高い丘の上にあった記念館は駅から見ることができたようです。来館者の多くが歩いて記念館を目指していたと言われています。戦後、来館者の減少などもあり、1986年には記念館は多摩市に、敷地は東京都へ寄贈されました。これに伴い、『旧多摩聖蹟記念館』に改称され、多摩市指定有形文化財に指定されました」

2022年には一般社団法人DOCOMOMO japanによる『日本におけるモダン・ムーブメントの建築』に選定された。

「市民に愛される開かれた施設として、今後も地域文化とのつながりを育んでいきたいと考えています」

澁谷朋恵さん
多摩市教育委員会　教育振興課／旧多摩聖蹟記念館学芸員。専門は近代思想史。

［**写真左**］館内には明治天皇騎馬像のほか、維新志士の和歌や漢詩、手紙なども収蔵。［**右上**］喫茶サロンを併設し、珈琲や紅茶などでひと休みできる。［**右下**］「旧多摩聖蹟記念館」の外観。

［**写真左上**］「多摩聖蹟記念館遠望写真」（1930年頃）多摩市教育委員会所蔵　［**左下**］「乗馬御尊像除幕式に奉仕の人々」（1930年）『多摩の聖蹟』所収
［**右**］「多摩聖蹟記念館絵葉書（路線図）」（1930-1937年頃）多摩市教育委員会所蔵

旧多摩聖蹟記念館

多摩市連光寺5-1-1（都立桜ヶ丘公園内）
10時～16時　休館日：毎週月・水（国民の祝日にあたる場合は、その翌日）年末年始（12月29日～1月3日）臨時休館日：6・7・8・12・1・2月の第2～5火（祝日等の場合は木）
042-337-0900　利用料金：無料

セイセキ歴史Walk #5

バス事業はまちづくり

聖蹟桜ヶ丘駅発 バス路線網の広がり

開業以来、「人と人」「人とまち」をつないできた京王電鉄バス。バス路線網の広がりについて聞いた。

Interview、Text：Satomi Yoshioka

聖蹟桜ヶ丘駅バスターミナルにバスが到着。降りた人々が駅へ向かう（1969年）

聖蹟桜ヶ丘駅バスターミナルを発車する瓜生（註・永山エリア）行きバス（1969年）

京王初の前・中・後の3扉車、三菱ふそう1970年式B800M型（1971年）

聖蹟桜ヶ丘総合開発（1967年）

中央大学多摩校舎の入学式で賑わう（1978年）
写真は全て「京王の電車・バス100年のあゆみ」より

バスの交通網は、住民の要望や需要に応える形で緩やかに広がっていった。

ときは1949年8月。多摩地域のバス運行は、聖蹟桜ヶ丘駅から八王子市へ向かう路線の開通に始まる。1日6往復で初乗り5円、八王子までは40円。その後、1日8往復に増便されて1956年には、聖蹟桜ヶ丘駅から村役場や村営多摩診療所を経由する、落合・中沢までの路線が開通した。

「昭和20～30年代の多摩村（現在の多摩市）は農業主体で、弊社資料によると、住民は徒歩や自転車で聖蹟桜ヶ丘駅に出て、通勤通学をしていました。誰もがバスの開通や延長を切望し、弊社はその陳情に応えたそうです」

こう話すのは京王電鉄バス株式会社の三浦裕介さん。舗装もなく、バスがすれ違えないほど狭い道路に、住民は自らの力で、待機所などを整備したという。

「収益はあまり見込めなかったようですので、住民の要望を重視したということなのでしょう。それだけに開通時の喜びはひとしおだったと思います」

バスの交通網は、住民の要望や需要に応える形で緩やかに広がっていく。1962年には「京王桜ヶ丘住宅地」分譲により、聖蹟桜ヶ丘駅から桜ヶ丘4丁目行きの路線バスが開通。「多摩市内の本格的な都市開発が始まりました」と、三浦さんは話す。

1968年には多摩ニュータウン建設を見越し、聖蹟桜ヶ丘駅への輸送力を強化。川崎街道の渋滞緩和を踏まえ、駅の改修工事がスタートした。翌年、手狭だった駅は高架となり、聖蹟桜ヶ丘駅北口にバスターミナルが完成した。

1971年頃になると、多摩ニュータウン諏訪・永山地区の入居開始。聖蹟桜ヶ丘駅～諏訪2丁目間の路線開通に続き、愛宕団地への運行も始まる。

「街開きと並行して路線が増えましたが、当時は京王相模原線も小田急多摩線も未開通だったので、多摩ニュータウンから聖蹟桜ヶ丘駅へのバス輸送は相当大変だったといいます。今よりも大きい、スリードア車を採用して、7時～8時の通勤通学ピーク時には、1台に100人から115人も乗っていたそうです」

1974年には多摩市内の2大系統である聖蹟桜ヶ丘駅と多摩センター駅を結ぶルートも誕生。その後も、落合、貝取、豊ヶ丘、鹿島、松ヶ谷地区、市内の学校と主要駅とを結び、地域住民の暮らしを支えてきた。バス事業はまちづくり。人と人、人とまちをつなぐ京王電鉄バスグループの歩みは続く。

三浦裕介さん
京王電鉄バス株式会社 運輸営業部。モットーは“バス事業はまちづくり”。小学校から高校まで多摩市連光寺で過ごす。

“タヌキがモチーフ”の新名物！

「TANUKI STUDIO」が考える「地域愛の育み方」

SEISEKI PEOPLE 4

多摩市の愛すべきアイコン・タヌキをモチーフとしたアパレルを展開する「TANUKI STUDIO」。地域愛あふれるオーナーの想いを聞いた。

Interview、Text：Momoyo Yuge

飯塚徹哉さん

多摩市出身。服飾の専門学校を卒業後、1年間海外留学へ。その後アパレル会社で経験を積む。30歳で独立し、2022年に「TANUKI STUDIO」をオープン。

タヌキのワンポイントが入ったオリジナル商品が並ぶ。スウェット、Tシャツ、ポシェットは特に人気。撮影を行ったのは「FLAG SHIP STORE」（多摩市貝取）。

「このまちを盛り上げたい！」シンプルなその気持ちが行動の源

京王永山駅からゆるやかに坂を上るとたどり着く、洗練された雰囲気のアパレルショップ「TANUKI STUDIO」。インスタグラムのフォロワー数は6万人以上に達し、多摩市発の洋服ブランドとして着実にファンを増やしている。

「アパレル会社で働いていたので、デザインをはじめ、製造、販売などのノウハウは習得していました。そのため、ユニセックスで着用できるデザインで、素材も良く、なおかつ適正な価格で商品を作ることができているのだと思います」と、オーナーの飯塚徹哉さん。

専門学校卒業まで多摩市で過ごし、留学や就職で一時地元を離れるが、結婚後30歳手前で舞い戻ってきた。

「自分が生まれ育ってきた場所なので、多摩市の住みやすさは体感しています。でも、“住みやすいけど、楽しみが少ない”が多摩市の現状。多摩市発の服屋がなかったので、アパレルブランドを作り、得意分野を生かして発展させていきたいなと思っています。今後、多摩市で回遊を楽しめるくらい、いろんなお店やスポットができていったらいいですね」

地元を盛り上げていきたいという強い気持ちを持つ飯塚さん。

「4月にはパルテノン多摩に移転リニューアルが決まっています。永山の店舗はそのまま所有して、誰かに使ってもらえればいいなと。イベントやポップアップストアをやったり、地元でビジネスをやりたいと思っている人の挑戦できる場所として活用してもらいたい。自分がハブ役となって各方面でつながりを作り、地域に貢献していきたい。何かをやりたくてうずうずしている人はきっといると思うので、気軽に声をかけてもらいたいです」

多摩市を訪れた人が「ここに来てよかった！」と思えるまちへ。飯塚さんの情熱とアイデアは尽きることがない。

TANUKI STUDIO

https://tanukistudio.jp/ja

tanuki.studio.tokyo

※4月上旬にパルテノン多摩5階にて移転オープン予定。

“まちのサードプレイス”っていい響き♡

駅と多摩川をつなぐ、セイセキの新店

SEISEKI PEOPLE 5

オープンから3ヵ月、地域に住む住人たちに愛されはじめた新店は、今日も元気に営業中。“まちのサードプレイス”を目指すわけは？

Interview：Saaya Konishi

森島北斗さん

おいしいご飯とおいしいお酒が大好きな『FRANKY』の店長。「気軽に話しかけてくださいね！」

地域の皆さんに愛されたい！気軽に立ち寄れる良店

聖蹟桜ヶ丘駅東口から歩いて数分。注目の新店が2024年12月にオープンしたという情報をキャッチ。

訪れたのは「FRANKY」。まちづくりプランニング会社、株式会社バターによる、初の直営飲食店だ。笑顔で出迎えてくれたのは店長の森島北斗さん。これまで多摩地域との縁は薄かったものの、「聖蹟桜ヶ丘に根づきたい。まちのサードプレイスのような存在になれたら嬉しいです」と、その眼差しは本気だ。

「せいせきカワマチが本格開業し、“川のある豊かな日常”が地域に根づきはじめてきた印象があります。聖蹟桜ヶ丘駅と多摩川の動線上にお店を構えているので、まちと川をつなぐハブになれたらと思っています。地域の皆さんが気軽に立ち寄れ、“交流を育めるような場”になったら嬉しいです」

京王線の高架下にあるこちらのお店は、木の温もりを感じる内装が特徴。テーブル席や一枚板のビッグテーブルのほか、クスノキを切り出してつくった立ち飲み席も用意。60名ほどが座れる広い店内を見渡し、その日の気分でどこに座るか選ぶ楽しさもありそうだ。

「料理は枠組みにとらわれない料理で、和食と洋食、2人の料理人が腕を振るいます。おすすめは、6種の前菜を盛り合わせた『今日もおつかれ！前菜プレート』と、季節の魚を自家製ポン酢につけた『シーフード薬味叩き』。代表の生まれ故郷が鹿児島で、実家が酒屋を経営していることもあり、焼酎のラインナップは約30種。お客さまの食事や雰囲気にあった焼酎を提案させていただきます。ご来店いただいたお客様にとって豊かな時間を提供できたら嬉しいです」

FRANKY

多摩市関戸2-41-1
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターD高架下建物

11:30～23:00
ランチ（11:30～15:00 / LO14:00）、
ディナー（17:00～23:00 / LO22:00）

042-319-3460

franky_seiseki

自然光が入る店内は、誰でも気軽に入れそうな明るい雰囲気。ファミリーにやさしく、ベビーカーOKで子供用のイスも用意。昼はカフェ、夜は嗜好を凝らしたディナーを楽しめる。

地域住民を中心に、いつも和やかな空気が流れる「Cafe Terrace シナモン」。店に歴史あり。56年間という長い歳月を経ながら、古き良き空間は育まれていった。店では不定期にさまざまなイベントも開催。取材中、「聖蹟ハニー」を届けにきた地域コーディネイターの塩田さんと談笑する場面も。

SEISEKI PEOPLE 6

聖蹟桜ヶ丘とともに歩んで56年

笑顔で迎えてくれる「みんなの憩いの場」

さくら通りから聖蹟桜ヶ丘を見守ってきた「Cafe Terrace シナモン」。
３代目店主の佐伯瑞絵さんを中心にアットホームな空気が流れていた。

Interview、Text、Photo：Tamaki Onda

佐伯瑞絵さん

多摩市で育って40年。「昔は桜まつりの時、学生プロレスが来ていて。周辺には田んぼも多かったんです」と話してくれるほど、聖蹟桜ヶ丘のまちと共に歩んできた。地域活動も積極的に行っている。

マッチ箱コレクションは圧巻！心と体に優しい老舗カフェ

実は「Cafe Terrace シナモン」の歴史は長く、聖蹟桜ヶ丘で最も古い飲食店の一つだ。1969年からさくら通りに店を構え、日本アニメーション時代の“あの監督”たちも訪れたことがある？と言われている。店の軒先でランプの光に照らされる看板のロゴは、当時から変わっていない。

地元野菜の無人販売を行うテラスを越え、ドアを開くと「いらっしゃーい！」と佐伯さんが笑顔でお出迎え。店内で一際目を引くのは壁一面のマッチ箱コレクションだ。なかには70年ほど前のものもあると言い、佐伯さんが「小さな絵画」と表すマッチ箱のパッチワークについつい見入ってしまう。コーヒーはコクのある味で、ファイヤーキングのカップにも古き良き喫茶店の雰囲気を感じられる。

目玉メニューは、地元野菜たっぷりの日替わりランチ。「毎日来ても、毎日違うものが食べられるのがポイントなの」と佐伯さん。季節を感じる食材と優しい味つけは「Cafe Terrace シナモン」の温かくフレッシュな雰囲気そのものだ。

佐伯さんは地元住民とのつながりも深く、その縁でお店ではさまざまなイベントを定期的に開催。アロマオイルのワークショップや手芸部、オカリナ教室、盲導犬ユーザーとの交流会や認知症の家族が語らう場にも変身する。本誌前号で取り上げた「聖蹟ハニー」や米粉を使った優しい甘さのお菓子「Rice is Good!」、さらに手編みのニット作品の販売も行っており、地元住民の情報やものづくりの発信地にもなっている。

客層は10代から90代までと幅広く活気に溢れている。取材で訪れた日も次々とお客さんが訪れ、顔なじみの方々はテーブルを囲んで熱く語り合っていた。帰っていくお客さんには「ありがとうね、気をつけて！」と、優しい声がかかる。大きな変化を遂げる聖蹟桜ヶ丘で、変わらない憩いの場がここにあった。

Cafe Terrace シナモン

多摩市東寺方１丁目２-12
11:30 ～ 17:00（LO16:30）
ランチ 12:00 ～ 14:00　定休日：月・火
（祝日は営業のため翌平日休み）
cafeterracecinnamon

京王聖蹟桜ヶ丘 SC便り

京王聖蹟桜ヶ丘SC × 地域の方々 多彩にイベントを企画中！

今回紹介するのは…
株式会社東芸イベントクリエイション
［写真左より］小山萌蘭、浅見絵美奈、冨山加奈子、赤堀曜平

せいせき
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

私たち東芸イベントクリエイションは、京王聖蹟桜ヶ丘SCの開業の翌年から、地域の方々の「心豊かな日々を彩るお手伝いをしたい」という思いを大切に、アウラホール（A館6階）の管理運営や京王聖蹟桜ヶ丘SCで開催されるイベントの企画運営の一助を担ってきました。地元小学生が“せいせきの魅力”を紹介してくれる「みどころ展」やその紹介を元に作成した「おさんぽmap」、シーズン毎の「ツナガルマルシェ」、地元の方にご参加いただく「ミュージックフェス」、「多摩市の野菜deごちそう祭」など、地元や参加者の方の魅力が輝く企画の実施を心がけています。地域の事業主の方、まちに住む方など、イベントを企画するにあたり、さまざまな立場の人たちとコミュニケーションを育みながら、印象に残るイベントづくりに取り組んでいます。京王聖蹟桜ヶ丘SCを起点に、今後もまちを盛り上げていけたらと思います。

［写真上・中］「Seiseki 38th Anniversary」開催中に行った「せいせきツナガルマルシェ」と「春のキッズお絵描き展示」。［下］夏休みイベント「せいせき ふれあい動物園」（A館6階アウラホール）を開催。写真は全て2024年の様子。

ウィズチャイルド かわのこほいく園 @サクテラスモール

「ママが来たくなる保育園を目指したい」

「かわのこほいく園」は2024年2月に開所した新しい保育園です。同園では0歳児、1歳児、2歳児の保育を担い、3歳以降は、市内の幼稚園や認定こども園などへの連結サポートも行っています。

私たち「ウィズチャイルド」グループは現在、聖蹟桜ヶ丘エリアで6つの施設（同園含む）を運営しています。モンテッソーリ教育方針に則り、子どもの自発性を尊重し、子ども自身が自分の力で幸せを生みだすことのできる環境づくりに日々取り組んでいます。保育者の「して見せる」から始まり、「一緒にする」で信頼を築き、「ひとりでできた！」という喜びを子どもたちがたくさん育めるように過ごしています。そして、保護者の皆さまとその成長を共有するために丁寧に「伝える」ということも大切にしています。

聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩5分、開放感あふれる保育室から見渡せるパノラマの絶景は都内随一です。多摩川の流れや渡り鳥、鉄橋をわたる京王線が一望できる環境で、多摩の風とお日様をたっぷり浴び、子どもたち一人ひとりがすくすくと育ってくれることを願っています。

聖蹟桜ヶ丘は私が中学生の頃から育った、とても愛着のあるまちです。まちの変化を受け入れながら、”我がまち”に少しでも貢献できたらと思っています。

株式会社ウィズチャイルド
代表取締役
田中鉄太郎さん

保育士・国際モンテッソーリ教師・調理師・食育指導士。多様な大人との関わりにより、子どもが豊かに育つ環境保障の実現を目指す。

日常生活の景色を多様にしたい！

ライフイズが実践する、地域×福祉の歩き方

SEISEKI PEOPLE 7

影近卓大さん

合同会社ライフイズ 代表社員／一般社団法人 Lifeis 代表理事。北海道網走市出身、理学療法士の資格を得て就職のために上京、2015 年に独立。6 つの事業を展開中。多摩市在住。

「誰もが地域に溶けこみ、ありのままで暮らしてほしい」と考える一般社団法人 Lifeis 代表理事・影近卓大さんが思い描く「地域」「福祉」のあり方とは？

Interview：Rika Odamori、Saori Shintome

日常生活の延長線上に“お互いを知る場”を

「日常生活の景色を多様にする」という思いを大事にし、南多摩地域で“福祉の視点”を持ったまちづくりを進める法人がある。重症児者向け児童発達支援・生活介護を行う「＋ laugh（アンドラフ）」（多摩市諏訪）をはじめ、訪問看護ステーション、重症児デイサービス、コミュニティカフェ運営など、現在 6 つの事業に尽力する「合同会社ライフイズ／一般社団法人 Lifeis」だ。

「誰にでも、自分一人ではできないことがあり、それをみんなで補い合いたい。みんなでできる方が楽しいですし、たまたま、自由に体を動かすことができなかったり、想いを分かりやすく伝えられなかったりする人がいるだけなんです。対等な一人の市民同士として緩やかなつながりを育める場所をつくりたいと思い、『＋ laugh』を開業しました」

こう話すのは代表理事の影近卓大さん。屈託のない笑顔が印象的な人だ。北海道網走市で生まれ育ち、理学療法士の資格を得て、就職のために上京。高齢者向けのデイサービスや訪問看護などを経験した後、2015 年に独立。多様な日常生活の景色を生みだしていくことを目指し、南多摩地域に腰を据え、これまで「地域」と「福祉」の関わり方について事業を通して提示してきた。

影近さんの眼差しはとても穏やかだ。「『＋ laugh』は団地商店街の中にあります。人が行き交う場所を拠点とし、事業所に駄菓子屋やフリースペースを併設することで、毎日多くの小中学生や親子連れ、高齢者の方々で賑わっています。地域市民と重症児者との見えない壁をできるだけ取り払いたいんです。外からは中の、中からは外の風景が自然に目に入ってくる設計なので、ここに居る全ての人が対等な市民として、自分らしく過ごしてもらえたら嬉しいです。日常生活の延長線上に“お互いを知る場”があること、大切だと思いませんか？」

影近さんの話を聞くにつけ、障害が個人の問題ではなく、障害者が地域コミュニティから切り離されてしまう社会の仕組みが、障害という概念を生んでいるのかもしれない、と考える機会となった。

地域の拠点となるコミュニティカフェ「Laugh Kitchen」（多摩市落合）も運営。働くスタッフのなかには、医療的ケア児を育てるお母さんたちも在籍。心にも身体にもやさしい食事やデザートでお出迎え。地域コミュニティを育む場としてベビーマッサージや歯固め作りのワークショップなども不定期開催中。

＋ laugh（アンドラフ）

医療的ケア児者や重症心身障害児とその家族が、地域の中で対等な市民として自分なりの地域生活を実現していけるよう、自然な形で地域住民と出会い合う場づくりを行う。2023年グッドデザイン賞受賞施設。

多摩市諏訪 5-6-3
多摩ニュータウン諏訪 102 号
※営業時間、利用時間は HP にてご確認ください。
https://lifeis-llc.com

「多様なウェルビーイング社会の実現」を目指し、企画構想から制作・運用まで、デザインによる価値づくりを追求する「株式会社ディーランド」。主な取引先は日立製作所、サントリーホールディングス、日野市、武蔵野美術大学ほか多数。代表・酒井博基さん（写真右）は同社代表のほか、京都芸術大学客員教授、武蔵野美術大学創業支援プログラムを担当。

ミートアップ 多摩のちから★ から始めよう

会社設立以来、
資産として残っていくような
長期的な視点の取り組みを
得意としてきた
株式会社ディーランド。
多摩地域のプロジェクトにも
これまで多く携わってきた。
未来へとつながるタネまき、
自主活動にも積極的だ。
“ウェルビーイング”をテーマに
いま・これからを伺ってみた。

株式会社ディーランド
代表取締役
酒井 博基
×
京王電鉄株式会社
聖蹟桜ヶ丘プロジェクトチーム
（一般社団法人聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント事務局）
北田 明

北田――地域コミュニティの在り方を市民と一緒に考えて具体的なプロジェクトやアクションにつなげる「日野市妄想実現課」の活動をはじめ、美大にしかつくれない創業支援の場づくり「武蔵野美術大学実験区」など、さまざまなプロジェクトを推進するディーランドさんの取り組みを知るにつけ、どうビジョンを導きだしているのか、とても興味がありました。

酒井――コンセプトをデザインするとき、「デザインを機能させ、人々の暮らしをいい時間で満たしていくためには？」という問いを大切にしています。どんなプロジェクトでも「根源的な問い」から「ビジョン」を導きだし、コンセプトデザインをしていかないと、社会に良質な変化を与えるプロジェクトにならないと思っています。「日野市妄想実現課」について言えば、画一的な幸福のモデルのない社会を前提に、多様な豊かさとウェルビーイングを実現する社会の在り方を問い直すことからプロジェクトをスタートしました。

北田――コロナ禍を経てウェルビーイングの捉え方がより多彩になった印象は、私にもあります。一般社団法人聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントの一員として「せいせきカワマチ（多摩川河川敷芝生広場）」の運営を担う中で、「川のある豊かな日常」というコンセプトを掲げていますが、その捉え方は人によってさまざまです。当たり前と言われればそうかもしれないけれど、できるだけ多くの方に心地よさを感じながらこの街での暮らしを楽しんでいただくために、ウェルビーイング視点でのビジョンの構築は必要だと感じています。そこで大事なことは、地域の皆さまの声をどれだけ多く集められるか。この視点を踏まえ、2 月 15 日に「第 1 回 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント カワマチシンポジウム」を開催しました。

酒井――素晴らしいと思います。「今年より来年のほうがもっと楽しい」という視点を持てると、まちに対する解像度や地域住民への眼差しが豊かになっていきますよね。暮らしの場で人と人とがつながり、創発されると、プロジェクトはやがてムーブメントになり、そのムーブメントが新しいカルチャー（文化）を興す可能性を秘めていますから。「せいせきカワマチ」を舞台に、今後どんなことが起こるのか、僕も楽しみにしているところです。

北田――私たちエリマネ法人の大きな役割の一つは、地域の方々が活動する器を整えることです。地域に関わる方々が主体となって“パブリックな器”としての「せいせきカワマチ」をどう活用してくださるのか、楽しみにしています。

酒井――どんな形になるかは分からないけれど、ウェルビーイング視点での取り組みをご一緒できたら嬉しいです。

せいせきカワマチ Seiseki Kawamachi

“ 語ろうぜこのマチの力、
カワのある聖蹟桜ヶ丘 ”

誌上リポート

第1回 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント

カワマチシンポジウムを開催しました。

2025 年 2 月 15 日、「関戸公民館 ヴィータホール」にてシンポジウムを開催。
新たに居住される方の流入が続き、まちに新しい賑わいの芽が生まれはじめている中、
“ 聖蹟桜ヶ丘を創る主人公 ” である地域住民の皆さんと、まちの未来について考えました！

振り返る

開会挨拶

三橋 誠（一般社団法人
聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント代表理事）

来賓挨拶

佐々木昇平さん（国土交通省
関東地方整備局京浜河川事務所長）

聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント・代表理事の挨拶では「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり」が「令和 6 年度かわまち大賞」を受賞したことを報告。続いて国土交通省 関東地方整備局京浜河川事務所長からは「かわまち大賞」の受賞理由や、かわまちづくりの持続可能性について述べられた。

考える

基調講演

「みんなで創る、地域資源を活かした街づくり」
林 匡宏さん（commons fun 代表取締役）

全国 11 のエリアマネジメント組織の代表を務める林さんは、まちづくりのこれまでの取り組みについて日本国内、海外事例を交えながら 20 分に亘って講演。地域資源を活かしたまちづくりのエピソードトークに、来場者は皆興味津々。可能性とワクワクを広げるキーワードとして「妄想力」が挙がった。

振り返る・考える

パネルトーク

「せいせきカワマチのこれまでとこれから」

写真左から…
中瀬正春（京王電鉄株式会社 取締役常務執行役員 開発事業本部長）
三橋 誠
阿部裕行（多摩市長）
ファシリテーター：野渕幹生（株式会社石塚計画デザイン事務所代表取締役）

冒頭、聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント・事務局長より、「せいせきカワマチを起点としたエリアマネジメントの取り組み」について説明。パネルトークでは立場の異なる 3 者がそれぞれの視点で「せいせきカワマチ」の取り組みを振り返りながら、今後の期待を語った。「公民連携したことで可能性が大きく広がった」と阿部市長。

行動する

パネルディスカッション

「私たちのまち、
聖蹟桜ヶ丘の可能性を探る」

写真左から…
松川寛紀さん（ハグジードーナツ）
藤井睦夫さん（藤井ファーム）
保志智洋さん（株式会社 LATTE GRAPHIC 代表取締役）
古前遥香さん（多摩地域特化型インフルエンサー）

地域で活躍する 4 人のパネリストによるパネルディスカッションでは、基調講演をした林さんによるライブドローイングも行われ、来場者もスマホで意見を投稿できる仕組みを使って議論に参加。盛り上がりは最高潮を迎えた。

参加者全員による記念撮影

終了後、交流会が行われた

【問い合わせ先】

「せいせきカワマチ」を使って、何かをやってみたい方の参加をお待ちしております。
お問い合わせは「聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント」メールアドレスまでお願いします。➡

KEIO

聖蹟桜ヶ丘（関戸）駅 開業100周年記念

「聖蹟桜ヶ丘まちあるきデジタルラリー」開催！

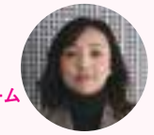
2025 年 3 月 24 日、聖蹟桜ヶ丘駅（旧称は関戸駅）が開業 100 周年を迎えるにあたり、聖蹟桜ヶ丘駅と駅周辺商業施設、地域の事業者等と連携した「聖蹟桜ヶ丘まちあるきデジタルラリー」の開催が決定！ 駅周辺商業施設や地域のお店、聖蹟桜ヶ丘周辺の景勝地などに配置された全 20 か所のスポットを回遊するデジタルラリーだ。主催する京王電鉄・横尾さんからこんな話を聞くことができた。

「聖蹟桜ヶ丘（関戸）駅は、駅と街が一体となって発展し、多摩市の北の玄関口として地域の拠点都市に成長してきました。今回開催するデジタルラリーでは、聖蹟桜ヶ丘と関わりのある多くの皆さんに、まちの歴史とまちそのものの広がりを感じていただくために企画しました。回遊するスポットは 20 か所。お手持ちのスマートフォンで気軽に参加してもらえるイベントになっています」

聞けば、スポットを段階的（5 スポット、10 スポット、15 スポット）にクリアするごとに、そして、20スポットをクリアするとコンプリート賞として、プラポン券を入手でき、カプセルトイを回して景品をもらえるとのこと。

「景品には、お買物券・グルメチケット（いずれも 500 円）のほか、聖蹟桜ヶ丘（関戸）駅開業 100 周年記念グッズやハグジードーナツオリジナルカプセルトイなどを用意しました。駅開業 100 周年に思いを馳せながら、奮ってご参加ください」

今回紹介するのは…
**京王電鉄株式会社
開発事業本部
聖蹟桜ヶ丘プロジェクトチーム
横尾聡美**



参加方法は？

STEP 1
スマートフォンアプリで「プラリー」をダウンロード。

STEP 2
各スポットに配置されているキーワードポスターを見つけてアプリ上に入力してスポットクリア。クリアしたスポット数に応じてプラポン券をゲット。

STEP 3
プラポン機にプラポン券の QR をかざし、カプセルトイをまわして景品ゲット。

「プラリー」詳細はこちら！

App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう

実施期間：2025 年 3 月 17 日（月）10 時～ 2025 年 4 月 4 日（金）18時

ラリースポット：
聖蹟桜ヶ丘駅および京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターや聖蹟桜ヶ丘オーパ、ザ・スクエア SC といった駅周辺商業施設、地域のお店や聖蹟桜ヶ丘周辺の景勝地などに配置されたスポット全 20 か所

景品引換場所：
聖蹟桜ヶ丘駅4階改札前
（京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター A B館 4 階連絡ブリッジ）

市民クリエイター募集中！

京王電鉄と情報誌『BALL.（ボール）』を発刊するけやき出版は共同で、聖蹟桜ヶ丘の街の魅力を取材・発信し、地域の価値創造を目指す取り組みの 1 つとして、市民参加型ローカルマガジンの発行を行っています。本誌は、聖蹟桜ヶ丘 “People” ガイドをテーマに、毎号 1 つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャー。本誌では、有志の市民クリエイターとして聖蹟桜ヶ丘の “ 街の魅力 ” を深掘りする方々を広く募集しています。

〔 問い合わせ先 〕

けやき出版
TEL：042-525-9909（平日 9 時～ 18 時）
MAIL：e-info@keyaki-s.co.jp

まちの掲示板

せいせきさくらがおかメリーゴーランド Vol.3　開催決定。聖蹟桜ヶ丘のドーナツ屋（HUGSY DOUGHNUT ）とコーヒー屋（tak beans）が主催するマルシェイベント。全国のおすすめの店が河原に大集結。メリーゴーランドもやってくる！ みんなであそぼう！
日時：2025年 4 月 13 日（日）10：00 －18：00　※荒天中止
場所：多摩川河川敷（せいせきカワマチ&一ノ宮公園）にて開催！
主催：せいせきさくらがおかメリーゴーランド実行委員会

編集後記

『セイセキ ZINE #6』の発行にあたり、多くの市民の方々にご協力いただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。今号のテーマは「つなぐ人」。聖蹟桜ヶ丘やその近隣を舞台に、自分らしくカラフルに仕事や暮らしを楽しむ方々と出会い、取材を重ねていきました。その道中、素敵な言葉とも多く出会うことができました。新しい季節を感じながら、まち歩きを楽しんでいただけたら嬉しいです。またお会いしましょう。

市民クリエイター

安藤 賛さん、大森悠史さん、小田森里佳さん、恩田環さん、片山明子さん、北方佐也加さん、小西紗礼さん、佐藤寿子さん、新留沙織さん、松竹暢子さん、弓削桃代さん、吉岡さとみさん

本誌に掲載する情報は 2025 年 2月末時点のものです。